

## 障害者の願いを未来へつなぐ「かけ橋」に

— 全国障害者問題研究会第36回全国大会を神奈川で —

全国から約二千人の、養護学校教職員や福祉施設職員、障害者らが参加して「つなぐがれ！ひろがれ！平和・人権発達へのねがい」全国障害者問題研究会第三十六回全国大会かながわ2002」が、全国障害者問題研究会（茂木俊彦全国委員長）の主催により開催された。

神奈川県民ホールでの開会式では、主催者側より歓迎と今回の大会が実り多きものになるよう期待したいとの挨拶がありました。

常任全国委員会からの基調報告では、昨今の政治動向から想定される課題や、今後の研究活動の焦点について報告がありました。

引き続き映画監督の山田洋次さんから、記念講演「しあわせに生きる」がありました。

山田さんは、寅さんでお馴染みの故渥美清さんのエピソードや最近の映画からみた原爆の問題を取り上げ、『分かり合うこと』そして『平和であること』が、障害のある方々が地域で暮らしていくためには不可欠であること。そして、言葉だけではなく論理化し、社会化へ結びつけていく努力が大切なのではと話されていました。



おだやかな語り口で思い出を語る山田洋次監督

式典の最後を飾る文化行事では、構成劇「つなぐがれ！ひろがれ！一歩ふみだそうなかまと一緒に」が上演され、気迫のこもった演技に、場内から声援が送られました。

大会二・三日目は九会場に分かれ、障害児・者の成長過程における発達保障、権利保障など喫緊する様々な課題を柱とした約五十にわたる分科会や、障害福祉の基礎知識を学ぶ基礎講座等が開催され、参加者たちは、外の暑さにも負けない熱気溢れる議論を繰り広げていました。

◆全国障害者問題研究会  
☎03—5285—2601

（企画課）

## 読者の声

私は、ホームヘルパー二級講座を受講しました。きっかけは、家で同居している八十七歳の祖母の介護に生かせればとの思いからでした。

その中で、三日間の施設実習に行きました。施設の中に入るのも、痴呆や麻痺のある方と実際に接するのも初めての体験です。お風呂の設備や食事の内容、リハビリの方法など、どれも充実している驚きました。また入浴時の更衣

介助では、思うように上着が着せられず、順番を利用者さんに教えてもらう始末でした。

ひとつ気になったのが、利用者さんの洋服でした。ある方は、ズボンのゴムが非常にきつく、靴下も子供が履く程度の小さなサイズのものでした。これを着て一日中過ごすのかと思うと気の毒で、こちらが悲しくなってきました。聞いてみましたが、本人は「分からない。大丈夫」と答えます。内臓

も圧迫しますし、身体にとつていはずがありません。洗濯物については、ご家族が洗うのと、クリーニング業者に任せているご家庭と半々だそうです。正直、業者を利用されている多さにも驚きました。ご家庭の事情も、もちろんあるとは思いますが、ご家族の方ももう少し気遣う、職員の方もご家族に連絡するなど、細かい心配りがあればと感じました。

この実習で、祖母に優しく接する事が出来るようになったことが、自分自身の大きな成果でした。介護は大変ですが、心からのお世話で相手に気持ち伝わり、「ありがとう」の返事も返ってくる素晴らしい仕事だと思います。経験した事を、今後役に立てていけるよう頑張っていきたいと思えます。

（鈴木光子）

▶投稿をお寄せください◀  
「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや今まで本紙に掲載してきた内容への意見でも結構です。700字を目安にしますが、分量は問いません。匿名でも結構です。原稿は郵送などで、県社協企画課タイムズ係へお送りください。

FAX 045-312-6302  
Mail kikaku@jinsyakyo.or.jp